

2021年度 阪大入試実戦模試志望動向<前期>

2021/11/26

- 全体では指数100の前年度並。文理別でも、文系、理系とも指数100の前年度並。前年度模試では文系がやや減少、理系が微減の傾向がそのまま継続。
- 文は指数90の減少で、2020年度・2021年度入試で2年連続志願者数が増加した反動が見られる。
- 外国語はコロナ禍で系統として不人気の中、指数110の増加だが、専攻よる動向の違いが大きいので、大学入学共通テスト自己採点集計「データネット」での志望状況を確認してもらいたい。
- 法は指数97のやや減少だが、学科別では(法)が指数104のやや増加、コロナ禍の影響を受ける国際を含む(国際公共政策)が指数83の大幅減少で対照的な動向となっている。
- 経済は指数105のやや増加で、2020年度・2021年度入試で2年連続志願者数が減少した反動が見られる。
- 人間科学は指数96のやや減少だが、平均偏差値は0.4ポイントアップしており、注意が必要。
- 理は指数108の増加となっている。平均偏差値も0.4ポイントアップでやや難化傾向が見られる。募集単位別では、(生物/生命理学)は指数70の大幅減少だが、(数学)(物理)はいずれも指数100の前年度並、(化学)は指数122、(生物/生物科学)は指数121のいずれも大幅増加。
- 工は2021年度入試で志願者数が減少した反動は小さく、指数102の微増。平均偏差値が0.5ポイントアップしており注意したい。学科別では、(応用自然科学)だけが指数130の大幅増加、一方で、(地球総合)は指数94、(電子情報工)(環境・エネルギー工)はいずれも指数95のやや減少、(応用理工)は指数99の微減。
- 基礎工は2021年度入試で志願者数が増加した反動は小さく、指数97のやや減少だった。学科別では、専攻系統への高い人気が続く(情報科学)は指数107のやや増加で、平均偏差値も0.8ポイントアップで難化傾向が見られる。一方で、(システム科学)は指数88の減少、(化学応用科学)は指数95、(電子物理科学)は指数97といずれもやや減少。
- 医(医)は2021年度入試で志願者数が大幅減少だった反動はなく、指数96のやや減少で平均偏差値も0.2ポイントダウンで競争は緩和傾向にある。医(保健)は2020年度入試の大幅減少の反動はなく、指数88の減少となっている、専攻別では(保健/検査技術)が指数98の微減、(保健/看護)(保健/放射線技術)が指数85といずれも大幅減少。
- 歯は2021年度入試で志願者数が大幅増加だった反動は見られず、指数115の大幅増加だが、平均偏差値は1.6ポイントダウンで難化傾向は見られない。
- 薬は6年制のみの設置なので、難関大の創薬志向の影響を受けないこともあって、2021年度入試で志

願者数が大幅減少だったが、その反動は見られず指数95のやや減少で、平均偏差値も0.8ポイントダウンで競争の緩和が見られる。

2021年度 阪大入試実戦模試 志望状況<前期> 2021/11/26

大学	文理	学部	志望者指数		平均偏差値差	
			2021年度 /2020年度	2020年度 /2019年度	2021年度- 2020年度	2020年度- 2019年度
阪大	文系	文	90	105	±0.0	+0.4
		外国語	110	90	+0.1	-0.1
		法	97	97	+0.2	+0.1
		経済	105	92	+0.3	+0.3
		人間科学	96	92	+0.4	-0.5
	理系	理	108	97	+0.4	-0.4
		工	102	98	+0.5	+0.5
		基礎工	97	98	+0.6	-0.4
		医(医)	96	112	-0.2	-2.0
		医(保健/看護)	85	102	+0.2	+0.2
		医(保健/看護以外)	93	90	-1.2	+1.4
		歯	115	90	-1.6	-0.1
		薬	95	86	-0.8	+0.3
		合計				
		文系	100	95		
		理系	100	99		
	合計	100	97			

